

乾季から雨季へかわるころ

代表 坂場 光雄

マリ共和国のパマコでは 10 月～5 月が乾季で、半年にわたり雨がほとんど降らなくなる。3 月～5 月は平均気温が 30℃を超える猛烈な暑さが続く。最高気温は 40℃近くになる。乾燥しているの、体感温度はそれほどでもないが、少し動くと汗が噴き出す。椅子に座していると、背もたれ部分が汗でぬれる。タニタの温湿度計で測っていると、日中は湿度が 20%以下になって計測不能になることがある。パマコでの温湿度の一例は次の通りである。

2016 年 6 月 20 日		6:15	気温 32℃	湿度 56%	(以下時刻 気温 湿度の順)						
12:20	36℃	40%	13:00	36℃	37%	14:00	38℃	23%	15:30	38℃	20%
16:00	38℃	—	19:00	36℃	22%	20:30	34℃	46%	21:15	33℃	49%

コンクリートの建物は太陽に照らされると暖まり蓄熱される。夜になっても建物は暖まってお、建物の壁に吊り下げた気温計はずっと高い温度を示している。そのような建物でも、昼間の部屋の中は直接に日照にさらされないの、涼しく感じる。日が沈んでから部屋に入ると、壁からの放射熱があり、なかなか気温は下がらない。何回か測ったが、34～35℃ある。寝床用のマットレスも熱を帯びている。夜のテラスは 31～32℃で幾分涼しい。以前はテラスに蚊帳を吊って寝ていたが、治安の問題から部屋の中に寝るようになった。ドアは開けたままであるが、とにかく熱い。なかなか熟睡できない。

雨が降るようになって、初期の雨の降り方をみると、最初の異変は突風である。乾燥している時期の強風は、ほこりを舞い上げ、部屋中が砂塵で覆われる。その後強い雨が降りだす。雷もよくなる。停電もある。風が吹くと、急いで洗濯物を取り入れ、ぬれて困るものを部屋に移動する。降雨による大きな変化は気温の低下である。7 月 17 日の記録では、12 時 30 分、雨の前の気温 31℃、湿度 64%であったが、13 時ごろから雨で、13 時 30 分には気温 25℃、湿度 82%になった。気温は一気に 6℃も下がった。25℃になると寒いと感じる。体調維持が肝要である。

雨が多くなると蚊やハエも多くなる。6 月はマンゴーが実る時期でおいしくいただくが、完熟マンゴーの発酵の匂いにはハエが大量に集まってくる。マリの人たちは片手を振り回して追い払いながら食べている。暗くなるとハエはやってこないの、安心して食べられる。

蚊除けのために蚊取り線香を焚くが、うっかりしていると、すぐに刺される。寝床の蚊帳の出入りの際に、蚊が中に入ることが多い。苗木ポットのまわりにもたくさん群がるが、一斉大量に刺されることはないの、オスも多いようだ。

雨季になって 1 か月もすると、郊外の枯れていた原野や畑には草が生え、一面のみどりになる。この時期の楽しみは花。少し水が溜まるような湿地にヒガンバナ科のクリナム属の花が一斉に開花する。花の長さが 15cm ほどのユリのような形状で、白に赤い縞が入っている。花期が短く、ちょうどよいタイミングで出会うことが難しい。ブッシュでは 4 枚の円形の葉を組み合わせた中央に黄色い花を付けるオオホザキアヤメ科のコストゥススペクタピリスや 2 種類のアカネ科クチナシ属を見つけた。花は大きく、形は日本のクチナシに似ている。

厳しい生活環境であるが、村の周囲の里山には、薪炭材となる木材資源ばかりでなく、食材となる茎葉、木の実、根茎、油脂材、薬草薬木類などたくさんの生活資源があり、現在もよく利用されている。この里山が過剰伐採などで疲弊しており、その回復が望まれる。

現場報告 2016年夏は雨が早く蚊も多かった

坂場光雄

2016年夏の派遣期間は5月27日出発、7月27日帰国の2か月である。昨年11月、バマコでのホテル襲撃事件で治安の悪化が心配されたが、その後は落ち着いているということで、派遣が実施された。派遣期間中バマコ周辺では問題なく活動できた。

6月初旬から7月下旬までの約2か月で60カ村(荒廃地植林地を含む)に苗木配布・植栽協力を実施した。配布・植栽した苗木総数は14,570本で、ユーカリが44.5%、バオバブが22.7%、その他20種が32.8%となっている。

2016年夏の活動地域と活動内容

活動地域	主な活動地	活動内容	配布本数
バマコ(首都)	バマコ事務所	苗畑:有用樹苗・稚苗育成	
バマコ北部	カバコ、カバロ、コジャン、ザンブグー、テネンザナ、ベニャブグー コジャン小学校	苗木配布 学校林育成	1,855本
バマコ南部	コンゴジャン、ザバン、ジェンコマ、セベラコロ、ファラダラ、ファラダラニ、ファラダン小学校、	苗木配布 学校林育成	3,675本
ファナ	イソバンティギ、ガバコロ、コクーンコロ、サマー、ジャンファブグー、ジョジャブグー、チンゴーレビニンコ、マーミーブグー、モデイ、ニヤマト	苗木配布 見本生垣 荒廃地植林試験	9,040本

①苗木配布

バマコ北部では、苗木供給の場となる苗畑で井戸が壊れて苗木の生産が止まっており、大部分の苗木をバマコから運んで配布した。昨年村人とともに菜園に植栽したユーカリは2mを越えて生育していた。

バマコ南部では、幹線道路から離れたサナンコロブグーの南部地域一帯の9村を訪ねて、配布した。この地域は、幹線道路から離れた奥の村でも援助が届いており、援助を示す看板が立っていた。

ファナ地域で、これまで毎年配布地域の村を減らし、少し離れた村を加えて配布した。何年振りかで訪ねた村で、住民が育てて大きくなった苗木を確認した(コクーンコロ、マーミーブグー)。



苗木を手渡す(ザンブグー) 果樹が生育(マーミーブグー) ユーカリ列植(テネンザナ)

②地域苗畑支援

地域にあるいくつかの小さな苗木生産者を支援し、地域での苗木供給を進めている。

バマコ北部のカマカ苗畑は井戸が壊れて水がなく、降水待ちで、ほとんど生産が出来ていなかった。残っている苗木を購入し、ポット用袋を支援した。

バマコ南部のサナンコロバ苗畑は多くの苗木が作られおり、順次生産されたものを、購入・活用できた。バオバブ苗がほとんどなかったのは残念だった。

ファナではコビリ、ウォルドの2か所ずつの苗畑で多くの苗木が作られており、種子やポット用袋を支援した。タンバブゲーはいろいろな樹種が増えて、購入・活用できたが、苗木の育ち過ぎや同一種を作りすぎる問題があった。



よい苗と悪い苗(コビリ 2)



苗木の購入(サナンコロバ)



育ち過ぎユーカリ(ウォルド 1)

③ 荒廃地植林試験地と生垣の管理

荒廃地植林試験はニヤマト村の幹線道路沿いで実施している。シロアリ塚のアカシアセネガル植林は、草刈り管理の効果もあり、まとまった低木林となっている。

西側の部分の植栽地は、周辺の低木林の火入れのために、一部が焼けて枯れがみられた。7月に入って草が生えてくると家畜が放牧されたが、植栽した苗木は食われなかった。

生垣管理では、ホテルムレンとタンバブゲーで、アカシアセネガルの生垣モデルを作っており、その剪定管理を行った。幹の生育に伴い、枝が横に張り出している。上部の枝幹を切ってしまうと、種がとれないということで、高さ2mほどまでの張り出した枝を剪定した。上方の枝幹は元気であるが、下部の枝は勢いなくなり、枯れあがってくる。切り取った枝は根元に置いて、柵としての機能を補強した。



アリ塚植林の生育は順調



家畜の放牧と苗木(7月)



高さ2mまでの枝を剪定

④ 夏の活動環境は

今年の6月はイスラムのラマダン月で、飲食に多少の不便さがあった。今年は雨が多かったのと事務所の前の側溝の排水の悪さで蚊が大発生。蚊帳の中にもたびたび侵入して刺された。マラリアにはならなかったが、足首の鉤虫が入り、帰国後切除した。

マリ生活点描

鉄の女 ～バマコ市内屋台一掃

今回、バマコ市内を走っていて乱立していた沿道の屋台がきれいに消えていることに気づきました。スタッフのトラオレさんによると、「鉄の女」の鶴の一声だといいます。

バマコは、慢性的に渋滞が激しく、対策が求められていました。自動車の数が劇的に増えたことありますが、道路に張り出す沿道の屋台もその渋滞に一役買っていました。歴代のバマコ特別区長はこの問題を認識しておきながら、屋台一掃を実行したときの市民の不満の爆発を恐れ、二の足を踏んでいました。そこに新しく就任したアミ・カノという女性の特別区長が、大ナタを振るったのです。

沿道の屋台は一掃され、交通渋滞は改善されました。商売場所をなくした市民の不満から来るデモなどは今のところ無いようです。この毅然とした態度で問題解決に取り組む姿勢を、サッチャー元英国首相になぞらえ、「鉄の女」と呼ばれているそうです。(榎本肇)

今年は4ヵ村10名の篤農家を3か所の地域苗畑に連れて行き、研修を行いました。
今回は研修を終えた村人にスポットを当てて、里山再生の取り組みをご紹介します。

里山再生を目指して

榎本 肇

有用樹を残して木を植える

カソマブグー村のバルー・ジャラさんは昨年研修を受け、自身の菜園に果樹を植えたり、生垣を育成したりして、里山の再生に向けた取り組みを始めています。

今年は、ユーカリやカイセドラなどの材を目的とした植林を始めました。場所は、自身が所有するウシを集めておく柵の周りの灌木林です。マリでは多くの人々が、植林をするときに灌木を全部切り払ってユーカリなどの苗木を植えます。バルーさんは生えていた灌木のうち有用なものだけを残し、後は切り払いました。「残した有用な樹木と植えた樹木の両方が取れば、一石二鳥だからね。」

浸食される休耕畑へ植林

ウェラクラ村のドリッサ・トラオレさんは叔父に苗木の作り方や接ぎ木を学び、規模は小さいながらも果樹や野菜栽培をしています。彼も今年研修を受け、自身の土地で里山再生に取り組もうとしています。

マリでは森林の伐採が進み、灌木化することでその涵養機能が低くなっており、雨期に降る雨が一気に水の通り道に集中し、道路を寸断したり土地の浸食が進んだりしています。彼が里山再生を行おうとしている土地は雨水の通り道となり浸食の激しくなった休耕畑でした。

休耕畑には雨水の通り道が蛇行して深い溝となっています。そのため牛犁を用いての耕起もできないことから、作物栽培もできません。「作物栽培ができないから、ここでは木を育てたいんだ。」

「私たちは木について何も知らない」

ジェバ村のスマイラ・コナテさんはサヘルが配布したユーカリを畑に植えうまく育てています。自身でも野に生えているカイセドラの実生を掘り出してきて、植え育てているほどです。

そんな彼が研修に当たり、こんなことを言いました。「私たちは木について何も知らない。」この言葉が、本音で言ったものか、講師の地域苗畑主を立てて謙遜して言ったものかわかりませんが、彼ほどの男がこういうのかと少し驚きました。そして私たちがしている苗木配布についても思いを巡らせました。多くの村人は「木について何も知らない」と。さもあらんと植林ワークショップとして、機会を見つけては村人と共に植えることをしてきたのですが、それも十分とはいえませんでした。

彼はこうも言いました。「だから多くのことを学べるこの研修を楽しみにしてきた。」その言葉通り、研修では講師に様々な質問を投げかけ、多くのものを吸収していました。

そして、研修の最後に一言。「コネさん、サコさん（研修講師）と知り合える機会を与えてくれて、サヘルの森には感謝している。これで何か行き詰った時には、バイクを飛ばして聞きに来れる。」

里山再生の広がり

これまでサヘルの森は地域苗畑主から苗木を購入して、その苗を村人に配布して、その村人たちが個々の思い思いの場所に植え、育て、使える小さな林をつくる支援してきました。多くが「木のことを何も知らない」村人たちです。

一方で、「多くのことを知っている」地域苗畑主の数は決して多くはありません。そして彼らを知る村人もそう多くはありません。スマイラ・コナテさんのように、地域苗畑主と繋がり、その技術や経験を活かして里山再生を実践していくことで、自分の村や地域に還元していくことが、今のサヘルの森が行っている里山再生の取り組みの第一歩なのだと感じました。そして、それを見た周りの村人たちが自分たちもと行動を始めることが、里山再生を進める原動力となっていきます。

岩手県軽米町にお住まいの国久さんから、町の一大事を記した原稿をいただきました。皆さんの身近でも林や畑が突然ソーラーパネルになったなんて経験はありませんか？計算上は全国の森林 1%を潰してパネルを置けば発電量は充足するというのですが・・・

自然エネルギーと森林伐採

国久 洋

私たちの町岩手県軽米町では、超大型太陽光発電が着工工事中です。5か所に分かれていますのですが合計 20 万キロワット、一般家庭 7 万世帯分の電気が起きる予定です。

いずれもあまり傾斜のきつくない山林に設置される予定で、発電会社が借り上げる面積は合計 840 ヘクタール、そのうち 300 ヘクタールほどが森林（人工林が主）を伐採してソーラーパネルを設置する予定です。私の山も貸すことになりました。

軽米町は人口約 1 万人（4000 世帯弱）、総面積は 24000 ヘクタールほどの町です。むろん山林が広いのですが 300 ヘクタールは町の面積の 1.2%をちょっと超えます。

どうしてこんな広い面積で太陽光発電を計画がなされたのか、実はこういう計算があります。いま世界ではパリ協定が締結されて、温暖化が大変だから、世界中で温暖化防止をすることになりました。その規模は 2050 年で日本などでは CO2 を 8 割削減するという大変なものです。いま日本では世界でも、火力発電が 9 割の電力を発電しています、この 9 割の火力がもし 2 割に減ったら、原子力が 2 割残っていたとしても、計 4 割にしかならず後の 6 割が消滅の危機。なにか新しい電力源が発明されると空想する（核融合が成功するか太陽光・風力・水力以外の自然エネルギー）方も多いようですが、（詳しく申し上げるのは省きますが）新しいものは万一核融合が早くできない限りは、大規模な代替エネルギー源には成り得ないようです。

だとすれば危機の 6 割のうち 3 割は太陽光発電で電気を起こさざるを得ないのでないか、残り 3 割は風力発電と他の自然エネルギー（注：水力は別勘定）で賄うとして。例えば水素自動車も普及しても、車で使う水素も太陽光・風力から電気分解しなくてはなりませんので、電力は減らせないでしょう。もし今の電力の 3 割を太陽光発電で賄うという話なら、設備量で 3 億キロワット分が必要になる計算です。住宅の屋根の上で 6000 万キロワット作るとしても、残りの 2 億 4000 万キロワットは軽米町のように森林などの土地をソーラーパネル用地として利用せざるを得なくなる可能性が高いとこういうことです。

不足分の 2 億 4000 万キロワットを全国 1200 市町村に振り分ければ、全ての市町村に 20 万キロワット級の太陽光発電施設を設けなければ足りない計算になります。

全国 1200 市町村が 300 ヘクタールづつ森林を伐採して太陽光発電をする？と驚く皆様が多いと思います。総合計は 36 万ヘクタール、全国の森林面積の 1%をちょっと超えてしまいます。大変なことです。

一方で関東東京電力管内では、太陽光発電は 1 億キロワットが不可欠のようです。都会で足りなくなった電気を全国の森林 1%が担うことになるかもしれません。

もちろん軽米町内にも 300 ヘクタールも森林を伐採するなんてとんでもない、自然が怒る。地元 4000 世帯分だけ発電したら良いだろうという意見もありました。程度は不明ですが保水力の低下で洪水が起きるに決まっている、という主張も出ました。

森林ではなく、現在何も作物を耕作していない非耕作田畑を使えないかという意見に軽米町も非耕作畑地の使用許可を問い合わせたのですが、農水省が許可を出さなかったようです。この非耕作畑地は現在輸入に頼っている小麦大豆を将来作るために、過疎からの復興のためにも、空けておくべきだということのようでした。

トンブクトウの平井堅

上田 隆 (会員番号 1391 番)

【8月16日2003年】

朝起きて、少し散歩した。ラクダに少年が乗っている。白人ファミリーの車が出発した。街で朝食を取って我々もトンブクトウへ出発。イキナリ膝上の水を超えていく。何度も何度も川を越え、岩場の間で栽培しているマンゴーを見て、さらに進む。

ゲートで白人ファミリーの車に追いつくが、ギャップでジュリ缶(携帯ガソリタンク)を落として抜かれる。渡し舟乗り場で追いつく。そして、ポーっと待つ。青い渡し舟が着いた。なぜか、荷物を降ろすのを手伝う。マリ人より俺は力持ちか？

日曜なので、電話できずレストランでメシを食べる。猫がかわいい。トンブクトウのホテルでガイドをやっている旧知のタマシェク、ハッタイさんの居場所を尋ねる。みんな青い服を着た平井堅。

車でグンダム方向へ。突然原野に入る。先々でハッタイさんの居場所を聞く。みんな平井堅。おじいちゃんを車に乗せる。車のドアを閉められない。このおじいちゃんもきつと昔は青い服を着た平井堅。赤い服を着た女の子が居る家でお茶の時間。女の子がロバに乗ってどこかに向かった。ずいぶんたって、ラクダに乗った青い服を着た人が登場。格好良すぎる。ハッタイさん登場。

そこで寝ることになる。夜遅く、ヤギ肉のご飯を食べて寝る。星がたくさん。面白すぎる1日。風と砂の中で寝る。周りにはみんな平井堅。スーレイマンが東の方向に向かって祈りを捧げている。その姿が美しい。

上記は2003年、杉野二郎さん(会員番号166番)にくっついて、トンブクトウに行った時の、ドウエンザからトンブクトウに移動、ハッタイさんの家に着いた様子です。マリの8月は雨季。道路が水に沈んでいたり、虫が多かったり、砂の上に草が生えていたり(トゲが鋭い草)、...

13年ぶりに読み返してみると、いろいろ
No.99 2016.12 サヘル

な発見がありまして、白人の観光客が居る様子。岩場の周りは水が集まる為、マンゴーも栽培できる。荷物を降ろすのを手伝ったくだけりでは、「遊牧民は筋力があまり無い」という発見。炎天下、数十キロ歩くことはできるのに、重いものは持てない。百キロでも持ってしまう農民とは大違いです。

携帯電話が普及してないので、テレホンオフィスに申し込んで電話をかけていた。そして、タマシェク族の顔立ちがアフリカの黒人と違い、アラブ系ほどホリ深くない、褐色の平井堅でした。青い服はタマシェク族の伝統的な色で、藍染です。

ハッタイさんが、家に居なかったのは、川の近くだと蚊が多いという理由で、住まい(テント)を移動していたから。遊牧民らしいエピソードです。

何年に会員になったか忘れましたが、トンブクトウに行きたい!行きたい!と騒いで、やっと叶った瞬間です。そこは、想像していたより抜群に面白く素敵な所で、過酷な生活環境で笑って生きている人々が居ました。

2006年から3年、1~2月の冬の時期、ゴッシで植林に励みました。治安の関係で、トンブクトウにもゴッシにも、今は行けません。生きているうちにまた行きたい。行けるようになって欲しい、そう思う今です。

.....
…会員番号は整理のための数字ではない。会員番号にはひとつづつのドラマと息がある。今は欠番の人の思いも積み込んで、会は前に進んでいきます。(サヘルの森)



テントの中でお茶の時間

■「グローバルフェスタ JAPAN 2016」に参加して

本年度のグローバルフェスタは10月1日～2日にお台場センタープロムナードにて開催され、サヘルの森も出展しました。

初日は、やや天候が悪く来訪者が少ないのではないかと危惧されましたが、多少の小雨の中、多くの来訪者がありました。

今年はバオブブの苗を大量に持ち込んだので結構目立った感じで植林関係の話しにキッカケにはなった気がします。購入してくれた本数は12本くらいでしょうか。持ち帰りが楽なのでバオブブの種も10個くらい売れました。また、ぶらりとブースを訪れたNHKの若手アナウンサーがバオブブや植林活動に興味を示してくれました。

最近バオブブは日本では鉢植えしかできないので盆栽化することが一部マニアで流行っていることが判明。今後はバオブブ盆栽にも挑戦してみると面白そうです。

二日目は晴天となり、多数の来訪者がありました。持参したリーフレットも全部配布しました（最後は少し足りなくなりました）。また、持ち込んだ30本以上の苗は全て完売でした。バオブブの種も売れました。私が持ち込んだ2年目のバオブブも購入希望者に多少の参考にはなったようです。

マリ隣国の現地の方もサヘルのブースを訪れ、バオブブの葉っぱを乾燥させている写真やそれで作られたソースの写真を見て「俺も小さい時から食べていた。栄養豊富で骨が太くなる。」と懐かしそうにコメントしていました。

今後も多くの人々にバオブブの苗を通じて遠くアフリカの植林活動に関心を持ってもらえるといいなと思います。（戸本喜文）



完売したバオブブ苗木

■地域のお祭りでサヘルの活動紹介～八朔人形祭り（香川県）～

会の力不足で広報活動が十分に出来てないことがいつも気になっています。100%の解決策ではありませんが、一つの試みとして思いついたのが身近なお祭りの利用です。

私の故郷、香川県仁尾町では毎年9月に「八朔人形祭り」が開かれています。20年ほど前に始められたスタンプラリー形式のお祭りで、歴史上の英雄や昔話の主人公が活躍する場面をジオラマに仕立てた舞台を町内各所に設け、来場者が見て回ります。今年は9月17日～19日に開かれました。手作り品や飲食の販売など一般の人も参加が可能なので、ルート沿いにある実家の元店舗スペースを使って今回初めてサヘルの活動を紹介する展示を行いました。活動写真パネル12枚とリーフレットなどの基本的な展示のほか、「マリの生活道具」「アフリカの布」「アフリカの絵本」「バオブブ」のコーナーを設けました。バオブブの苗木はここでも多くの人の目を引き、女性にはカラフルな布が人気でした。

写真パネルとリーフレットの基本展示は小スペースで実施できます。皆様の周りの身近な場所（公共施設やお店など）に展示に利用できるスペースはありませんか？

（森律子）



人気だったバオブブ

国内活動(6～12月)

<報告会>

- ・9/19 坂場報告会 町田市民フォーラム
- ・12/2 活動報告会 自然環境研究センター

<広報>

- ・8/30 マリフォト通信発行

<定例活動・キャンプ>

- ・6/18 ブリジストン博物館、小平中央公園
- ・7/16 多摩川自然館、古天神公園
- ・8/20 サヘルキャンプ(横浜市瀬谷区)
- ・9/17 戸山公園一乙女山自然公園
- ・10/15 西新井大師一舎人公園
- ・11/19 都立城北中央公園と石神井川

<イベント>

- ・9/17～19 八朔人形祭り(香川県仁尾町)
- ・10/1～2 グローバルフェスタ JAPAN 2016 (東京都江東区)
- ・10/23 みなこいワールドフェスタ・こまがね国際広場(長野県駒ヶ根市)
- ・11/5～6 ジャパン・バードフェスティバル 2016(千葉県我孫子市)
- ・12/4 第10回市民協働フェスティバル「まちカフェ！」(東京都町田市)

定例活動(1～2月)

1月、2月の定例活動の予定です。坂場代表とぶらぶら散歩をご希望の方は、事前に事務局までご連絡下さい。

- 1月21日(土) 10:30 集合

新宿山の手七福神めぐり

いつもと違った視点で新宿を見聞します
JR中央線・飯田橋駅西口改札

- 2月17日(土) 10:30 集合

旧安田庭園、たばこと塩の博物館

古い庭園と世界の塩が見られます
JR総武線・両国駅西口改札

クリスマス募金のお願い

早いもので今年も残すところわずかとなりました。年末恒例のクリスマス募金への御協力をお願いします。



関西(奈良)支部より

地球環境保全活動団体交流会「匠の環(たぐみのわ)」に参加します。

奈良県内で地球温暖化防止など環境問題に取り組む団体の活動報告会に関西(奈良)支部が展示参加します。お近くの方はぜひお立ち寄り下さい。

- 12月21日(水) 12:30～16:30

(開場 12:30) 申込不要、入場無料

会場: 奈良県文化会館 小ホール

(近鉄奈良駅より徒歩約5分)

主催: 奈良県地球温暖化防止活動推進センター 特定非営利活動法人 奈良ストップ温暖化の会(NASO)

詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://naso.jp/takuminowa2016/>

会費納入にご協力ください

NPO法人『サヘルの森』はサハラ砂漠の南縁サヘル地域において植林活動を行う市民団体です。会員には機関誌『サヘル』が届きます。お申し込みは、郵便振替で下記の口座に会費をお振込みください。

- ・一般会員 年 5,000円
- ・維持会員 年 20,000円

特定非営利活動法人 サヘルの森

住所: 〒194-0013 東京都町田市原町田 1-2-3

アーベイン平本 403 (株)エコプラン内

TEL: 042-721-1601 (留守電対応)

FAX: 042-721-1704

郵便振替口座: 00170-6-115054

HP: <http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/>

BLOG: <http://sahelnomor.exblog.jp/>

E-mail: sahel-no-mori@jca.apc.org

機関誌『サヘル』No.99 2016年12月13日発行

発行人: 坂場光雄 / 編集: 高津佳史
